

花のお江戸を歩く会

塩の道・江戸の村を歩く

「妙典～行徳～一之江界限散歩」

《コースガイド》

市川市行徳は江戸時代に家千軒に寺百軒と言われたほどの寺町でした。また徳川家康は行徳の豊富な塩を重視し江戸に運ぶため小名木川をいち早く開削しました。また、江戸川区一之江界限は家康入府以降本格的に耕地が開拓され江戸の近郊農村の道を辿り、今もその面影をとどめています。今日はそんな江戸とかかわりの深い「塩の道」から「江戸の村」を歩きます。

《コースの詳細》

東京メトロ東西線「妙典駅」→成田街道→春日~~×~~神社→清~~×~~寺→妙~~×~~寺→徳願寺→法善寺→長松善寺→妙頂寺→神明神社→自性院→蔵→公民館→権現道→妙覚寺→八幡神社→田中邸→行徳街道→加藤邸→笹屋うどん跡→常夜灯→浅子神輿店跡→おかね塚→行徳駅（ランチ）⇒南行徳駅（地下鉄で移動）→今井橋→今井の渡し跡→香取神社→八雲神社→浄興寺→大雲寺（役者寺）→一之江名主屋敷→城立寺（解散）→都営新宿線「瑞江駅」

《個別ガイド》

◆妙典の歴史と地名◆

その昔、成田山にお参りする人達は、江戸より船で行徳に着き妙典の道を行き来しました。これにより妙典の道は成田街道と呼ばれ大勢の人々で賑わったといわれています。特に徳川家康は鷹狩の際この道を好んで通ったことから「権現道」と呼ばれた。この地には古くから、日蓮宗を熱心に信仰する人々が多く住んでおりました。妙典という地名は、その経典より付けられたと伝えられている。

① 成田街道

今は、江戸川放水路で分断されてしまいましたが、放水路の対岸の田尻、高谷、二俣付近にも成田街道が続いており、今も古い町並みが残っている。

② 春日神社

創建は境内の燈籠の刻字から寛文10年（1671年）以前と推定される。3年に一回大祭が行われる。本殿の彫刻が素晴らしい。

③ 清寿寺

元禄8年(1695年)に、莊嚴律師日聞大徳によって開山され、清寿尼が開基した。釈迦如来、多宝如来、日蓮上人像を本尊としている。清寿寺は通称「ぜんそく寺」と呼ばれている。先代上人の母がぜんそくで難渋しており、その苦しさを治したいという信念から中山大荒行参行の折に祈祷し、母の病も全治し神仏の尊さを痛感し加持祈祷を開始。毎年、旧十五夜の日だけ加持祈祷を行っている。→寺町公園T

④ 常運寺

小田原北条氏の家臣野地氏、常運院日信が中山法華経寺に金銅の大仏を奉納した代わりに本尊を授与され、元和2年(1616年)に開いた。

小田原の北条氏が滅びたとき、野地久右衛門という武士が北条家の姫を守って行徳へ落ちのびて、今の常運寺のある場所に住みき、頭を丸めて、法華経寺へ参詣することを日課としていたが、ある日のこと法華経寺のお祖師様の像を拝んでいると「自分の像をお前の家に連れて帰って、堂を建ててほしい」という。そこでここに堂を建て常運寺と名付けたという。

⑤ 徳願寺(とくがんじ)

徳願寺はもと普光院とよぶ草庵で浄土宗勝願寺の末寺であった。慶長十五年(1610)徳川家康の帰依により、新たに堂宇が建立され、徳川の徳と勝願寺の願をとって、改めて『徳願寺』の名がつけられ、円誉不残上人を開山に開創されたものである。

本尊阿弥陀如来像は、かつて源頼朝の室政子が、仏師運慶に命じてちょうこくさせたものといわれ、徳川家康が二代将軍秀忠夫人のため、鎌倉から江戸城に遷したが、夫人の逝去後、当山二世忠残上人が請けて本尊としたものである。そして、三代将軍家光からは本尊供養料として、慶安元年(1648)朱印十石が与えられた。本堂は安政三年(1856)火災により焼失、大正五年(1916)に再建されたが、山門と鐘楼は共に安政四年(1775)の建築で、本寺最古の建造物である。山門に安置する二王像等の彫刻物は、明治維新のさい葛飾八幡宮の別当寺であった法漸寺から移されたものである。他に輪堂式経蔵や身代観音堂があり、本堂には湛慶作と伝える閻魔大王像が安置されている。

また、本寺には文化四年(1807)江戸深川の永代橋墜落による溺死者の供養塔や、宮本武蔵供養のための石地蔵をはじめ、武蔵筆と伝える書画、円山応挙筆と伝える幽霊の絵などが寺宝として保管されている。

⑥ 妙好寺(みょうこうじ)

永禄8年8月15日(1565年)本山法華経寺11世日典上人の法孫、一乗阿闍梨日宣法印によって開山創立されている。開基檀頭は、千葉氏千田の子孫で当時小田原北条家の家士篠田雅楽助清久。清久は、時の地頭で永禄7年(1564年)の

国府台合戦の折、千葉氏と共に小田原北條氏に味方した恩賞としてこの地「妙典」が与えられた。妙典の名は、法華經の經典が日蓮聖人の唱えた「南無妙法蓮華經」の如く妙なる經典であるところから付いた地名。

木造切妻茅葺の和様四足門です。建坪は25平方メートル。柱上の組物は三斗、中備えにかえる股を用い、頭貫の木鼻、虹梁、花肘木などの文様が、江戸中期の特色を示しています。建立年代ははっきりしませんが、山門修築の際に発見された棟札によると、「宝暦十一年（1761）己七月吉日・妙栄山十二世観樹院日秀（花押）・大工 下総香取郡千田之庄 石橋奎衛門重親」とあり、工事費は村民と檀徒によって喜捨されています。市川市内には多くの寺社がありますが、江戸時代のもは比較的少なく、この門は当時の建築様式をよく残している建造物として貴重なものです。

⑦ 長松寺（ちょうまつじ）

長松寺は山号を塩場山（エンジョウザン）という。松戸市馬橋の臨済宗大徳寺派万満寺の末寺で、溪山和尚により天文年間（1532－1555年）に開山された。正確な年次は不明であるが、溪山和尚の寂年が天文二十三年（1554年）であることから、それ以前の開山であることが窺える。開基は小田原北条家家臣松原淡路守重之である。淡路守は千葉県市川市行徳・大和田・平田あたりまでの領主であったという。

当時はこのあたりは塩場（塩田）であり、山号はこれに由来する。境内には薬師如来、塩釜明神を祀り塩焼き百姓たちの信仰を集めていたという。元文五年に書かれた資料によると境内地は四反二畝十六歩。末寺が四ヶ寺あり、今日の千葉県船橋市丸山町にも存在した。

⑧ 妙頂寺（みょうちょうじ）

弘安元年（1278年）に創建された。境内には寺子屋の往時を偲ばせる筆小塚がある。→妙応寺

⑨ 神明（豊受）神社

本社の起こりについては、金海法師という山伏が、伊勢内宮の土砂を中洲（江戸川区東篠崎町辺り）の地に運び、内外両皇大神宮を勧請して神明社を建立したのに始まるといいます。

金海法師は土地の開発と、人々の教化に努め、徳が高く行いが正しかったところから、多くの人々に「行徳さま」と崇め敬われたといいます。

この「行徳さま」がやがて行徳の地名になったというのですが、金海法師が行徳を訪れたのは大永七年（1527）のことといい、また天文十一年（1542）のこととも、慶長十九年（1614）のことともいわれています。

中洲に建てられた神明社が、現在の地に遷座したのは寛永十二年（1635）のことで、葛飾誌略という本には「中洲に在る時は小祠也。寛永十二乙亥（きの

とい) 大社に造立。その造立の節、十五ヶ村より寄進有りといふ。本願主田中嘉左衛門。元文二丁巳(ひのとみ)年・享保元申(さる)年とも田中三左衛門催しにて、祭礼に始めて屋台を出す。町内も此の時四丁に分る。新田とも屋台五つ、新宿客祭りとして屋台以上六つ也。」

とあって、屋台の出る賑やかな祭りの様子が伺われます。

現在、三年に一度の祭礼には、神輿渡御の行事が行われ、大神輿が町内を練廻りますが、その勇壮な揉み方に特色が有り、揉み方保存会がその継承に当たっています。

⑩ 自性院(じしょういん)

小岩にある真言宗善養寺の末寺で、法仙法師により天正16年(1588)に開基。本堂手前右に田中家の小作番頭、秋本九兵衛家の墓所に、勝安芳(海舟)筆の熊谷伊助慰霊歌碑がある。勝が「よき友」熊谷伊助の死を悼んで建てたもの。

勝の「日記」の中には「松屋伊助」と記されている。伊助は、睦奥国松沢(現岩手県一関市千厩町)の出身で、屋号の「松屋」はこれに由来する。慶応年間に横浜のアメリカ商館の番頭の職を得た伊助は、奉公した江戸の酒屋の縁で行徳出身の妻と結婚したと言われている。「よき友の消へしと聞くぞ、我この方心いたむるひとつなりたり。」

◆行徳の地名◆

大永7年(1527)金海法印という山伏が、伊勢内宮の土砂を中州(江戸川区東篠崎町辺り)の地に運び、内外両皇大神宮を勧請して、神明社を建立したことに始まる。金海法印は土地の開発と、人々の教化に努め、徳が高く、行いが正しかったことから多くの人から「行徳さま」と崇め敬われたと言われている。

室町時代になって、ようやく記録上に「行徳」の地名が現れたのは、応安5年(1372)のことで、集落ができたのはそれ以前のことと考えられる。葛飾記によれば、「惣て行徳と名付る事、本行徳金剛院の開山行人よりして起る」とある。

⑪ 権現道(ごんげんみち)

徳川家康が秀忠とともに、東金での鷹狩りの際にたびたび通った古い道を、相之川では「お成り道」本行徳では「権現道」と呼ばれている。(因みに権現様とは家康の尊称です)一行は、今井の渡しで相之川に入り、関ヶ島を經由して浅瀬を渡って本行徳に入ったと思われる。

権現道は、行徳街道が整備されるまで、本行徳村のメインロードでした。お神輿道から寺まち通りに向かって右側に寺が続き、当時は10の寺がありました。現在は廃寺になった寺が多く、その内の法泉寺は家康が立ち寄った寺として知られています。なお、当時の寺の裏はすぐに海であり、塩田が広がっていました。塩焼きの様子を見て家康は大いに喜び「塩は軍用第一の品」として行徳の

塩業を手厚く保護することになりました。家康の鷹狩りが、行徳の発展のきっかけとなったと言えます。→法泉寺

⑫ 妙覚寺

日蓮宗中山法華経寺の末寺であり、天正十四年（1586）に創建され、山号は正覚山、開基は心了院日通上人である。境内には東日本では大変めずらしい、キリシタン信仰の遺物であり、房総にただ一基の「キリシタン燈籠（とうろう）」がある。

燈籠の中央下部に舟形の窪み彫りがあり、中にマントを着たバテレン（神父）が靴をはいた姿が彫刻されている。（靴の部分は地中に埋められている）戦国時代の大名古田織部の剣豪であったといわれ、別名を織部燈籠（おりべとうろう）という。

《行徳公民館：小休止》→権現道《→円頓寺→浄閑寺→正讚寺》→行徳街道→《澤木酒店→田中邸（旧家）→八幡神社→神明神社→加藤邸（旧家）》

⑬ 笹屋うどん店跡

江戸時代の笹屋はうどん屋として大変繁盛したうどん屋で船着場にも近いとのこともあり行徳の名物になった。

伊豆で挙兵した源頼朝が石橋山の合戦に敗れて安房へ落ちのびる途中、行徳へ立ち寄り、ここにあったうどん屋にうどんをご馳走になり、それで源氏の家紋の笹りんどうを与えて”笹屋”と名乗らせたとの説があります。

建物は安政元年（1854）の建物でそのまま今も残っているが、個人宅になっておりますので中を見学することは出来ません

江戸末期に店の宣伝として描いた屏風、また太田蜀山人が書いたといわれるケヤキの大看板も残されておりいずれの貴重秘蔵看板・屏風は市川市立歴史博物館に寄贈され展示されている

⑭ 常夜灯

行徳は古くから塩の産地として知られ、この塩を江戸へ運ぶために開発された航路も、やがて人や物資の輸送に使われるようになった。寛永9年（1632）この航路の独占権を得たのが本行徳村だった。新河岸と呼ばれたこの船着場から江戸日本橋小網町までの間を往復した就航船を「行徳船」または「長渡船」と呼んだ。行徳船を利用した人たちには、松尾芭蕉、十返舎一九、小林一茶、渡辺崋山、大原幽学など、歴史上、文学史上に著名な人物も多く、特に文化・文政（1804～30）の頃からは、行徳を訪れる文人墨客や、当時ますます盛んになってきた成田山参詣の講中（信者の仲間）たちによって、船着場は賑わいを極めた。

この常夜燈は、文化9年（1812）江戸日本橋西河岸と蔵屋敷の講中が、航路の安全を祈願して成田山新勝寺に奉納したもの。正面の裏面に「日本橋」と筆太く刻み、左側に「永代常夜燈」、右側に「文化九壬申年三月吉日建立」と刻み、

台石には「西河岸町太田嘉兵衛、大黒屋太兵衛」ほか21名の氏名が刻み込まれている。

《浅子神輿跡→頃九神社→徳象寺→清岸寺》

◆行徳神輿◆

行徳の町で神輿が作られたのは、江戸中期頃からで、堅牢な神輿が有名になって、神輿づくりが盛んになった。その神輿の商談に欠かせないものが、行徳の塩だった。造られた塩が新潟、長野などの山間部へと運ばれていく時、神輿製作の依頼も受けてきたわけで、1,2年後完成した神輿はまた、塩とともに、行徳河岸から船で江戸川を下り、東京湾から隅田川を上り、千住まで行き、日光街道、中仙道を通してソルトロード(塩の道)沿にある宿場や村に運ばれていった。

神輿は古くは仏教彫刻を生業とする仏師たちによって造られたといい、港町でお寺が多かった天領行徳に仏師が住みつき、神輿製作が始まったのではないかといわれている。

行徳の神輿は、北は北海道、南は九州まで、日本全国の神社、町会等に数多く納入されている。浅子神輿店(浅子周慶)、後藤神仏具店(後藤直光)、中台神輿製作所(中台祐信)三軒の神輿店があったが、室町末期応仁年間創業の浅子神輿店は16代浅子周慶氏の急死により、平成19年10月、500年の歴史に幕を閉じた。現在は、唯一中台神輿製作所が製造から販売まで一貫して神輿を手掛けている。

⑮ おかね塚

寛文5年(1665)建立の阿弥陀石像がある。押切には古くから「おかね塚」の話が語り継がれてきた。話の概要は、押切の地が行徳の塩で栄えていた頃、押切の船着場には、製塩に使う燃料が上総から定期的に運ばれてきた。

これら輸送船の船頭や人夫の中には停泊中に江戸吉原まで遊びに行く者もあり、その中のひとりが「かね」という遊女と親しくなって夫婦約束をするまでに至り、船頭との約束を堅く信じた「かね」は年季が明けるとすぐに押切に来て、上総から荷を運んで来る船頭に会えるのを楽しみに待った。

しかし、船頭はいつになっても現れず、やがて「かね」は蓄えのお金を使い果たし、悲しみのため憔悴して、この地で亡くなった。

これを聞いた吉原の遊女たち百余人は、「かね」の純情にうたれ僅かばかりのお金を出しあい、供養のための碑を建てた。村人たちもこの薄幸な「かね」のため花や線香を供えて供養したという。

行徳の街が日増しに変わりゆく今日、たとえ遊女のかりそめの恋物語でも、語り伝えて供養してきた先祖の人たちの心を後世に残そうと、地元有志によって「行徳おかね塚の由来」を書いた碑が建立されている。→押切稻荷神社

⑯ 法伝寺

芝増上寺の末寺で、天文 22 年(1553)観竜上人の創建。昔、地域の学問の場として、明德尋常小学校という現在の南行徳小学校の前身があった。境内には、明德尋常小学校の記念碑がある。

本堂裏に地獄に落ちた人の生前の善悪を判定するエンマ大王とその判のために死者の衣をはぐ奪衣婆の石像と墓地に聖・十一面・千手・准胝・馬頭・如意輪の古い観音石像がある。

⑰ 善照寺

芝増上寺の末寺、寛永 2 年(1625)開創。覚誉潮随上人が開山、青山四郎兵衛正貞が父伊予守家貞の菩提を弔うために建立したとされている。山門を入れて左側に大日如来の智慧を表す、五智如来の大きな石仏がある。青山四郎兵衛正貞の子息である、青山四郎兵衛吉貞によって、万治元年(1658)2月15日に青山家有縁の供養のために建立されたもの。

梵鐘は太平洋戦争時に供出し、現在の梵鐘は昭和 30 年に新鑄造したもので、鑄造師は人間国宝香取正彦氏である。重さ 120 貫、梵鐘の撞座(鐘をつく場所)は通常 2ヶ所であるが、この梵鐘は 4ヶ所と特殊なデザインである。

⑱ 源心寺

芝増上寺の末寺。慶長 15 年(1610)源誉上人観智国師が狩野浄天の私財によって堂宇を建立、開山した。境内左手にある高さ 2メートルほどの六地藏は、狩野氏が寄進したもの。墓地奥に観音国師、狩野浄天夫妻の五輪塔がある。市指定文化財。→日枝神社

⑲ 了善寺

行徳で最古の寺である。足利持氏の家臣といわれる吉田佐太郎の陣屋跡として知られ、以前は、水路や土塁などの遺構があったという。→今井の渡し跡の碑→今井大橋→江戸川区へ。→香取神社→八雲神社→篠崎街道→椿通り・・・この間長いです・・・

⑳ 大雲寺(役者寺)

浄土宗で、長行山専称院と号し、京都知恩院の流れである。元和元年(1619年)二代将軍秀忠から寺域三千坪を賜って浅草に開山。のちに本所押上に移ったが、大正 12 年の大震災で焼け、昭和 6 年ここに移転した。

歌舞伎役者のお墓が多いことから「役者寺」とも呼ばれています。市川羽左衛門(初代から十六代)、板東彦三郎(三代から六代)、瀬川菊之丞(初代から五代)、松本幸四郎(四代から六代)、中村勘三郎(初代から十三代)などの名優のお墓があります。

21 一之江名主屋敷

この屋敷は、江戸時代初頭以来、一之江新田（現在の江戸川区春江町）の名主を代々務めていた田島家の住宅です。田島家はもともと堀田姓を名乗る武家で、初代田島図書（ずしよ）は堀田図書英丈といい、関ヶ原の戦いで豊臣方として参戦後、関東に下り、大杉村の田島庄兵衛方に寄寓し、田島図書として改名してこの地の開発に当たった人物と伝えられています。

田島家は元禄年間（1688～1704）には既に名主を務めていて、江戸時代を通じて、代々名主役を世襲してきました。主屋の建立は、安永年間（1722～1781）頃と推定され、江戸近郊農村の名主屋敷の風格を伝えています。敷地の周囲には堀が巡らされ、約2000坪の敷地内に長屋門曲り屋造の主屋、蔵などの建物、庭、屋敷林、屋敷畑（跡）などがあり、裏手に屋敷神の稲荷も祀られています。

22 城立寺

城立寺は、本高山と号し千葉県松戸市平賀にある本土寺の末寺で、開基は元和二年（1616年）といわれている。境内にある鬼子母神堂には、伝教大師の作と伝えられる鬼子母神像が祀られている。名主屋敷の田島家の菩提寺でもある。

好評の「花のお江戸：青春歌謡」です。歌うことは歩くことと並んで健康に良いです。

◆青い山脈◆

1. 若くあかるい 歌声に 雪崩は消える 花も咲く
青い山脈 雪割桜 空のはて 今日もわれらの 夢を呼ぶ
2. 古い上衣よ さようなら さみしい夢よ さようなら
青い山脈 バラ色雲へ あこがれの 旅の乙女に 鳥も啼く
3. 雨にぬれてる 焼けあとの 名も無い花も ふり仰ぐ
青い山脈 かがやく嶺の なつかしさ 見れば涙が またにじむ
4. 父も夢見た 母も見た 旅路のはての その涯の
青い山脈 みどりの谷へ 旅をゆく 若いわれらに 鐘が鳴る

◆リンゴの歌◆

- 1 赤いリンゴに 口びるよせて だまってみている 青い空
リンゴはなんにも いわないけれど リンゴの気持は よくわかる
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ
- 2 あの娘(こ)よい子だ 気立てのよい娘 リンゴによく似た かわいい娘
どなたが言ったか うれしいわさ かるいクシャミも とんで出る
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ
- 3 朝のあいさつ タペの別れ いとしいリンゴに ささやけば
言葉は出さずに 小くびをまげて あすもまたネと 夢見顔
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ
- 4 歌いましょうか リンゴの歌を 二人で歌えば なおたのし
みんなで歌えば なおなおうれし リンゴの気持を 伝えよか
リンゴ可愛いや可愛いやリンゴ